

本間校長インタビュー



3歳からスキーを始め、学生時代は競技スキーで多数の優勝、入賞を飾る。SIA初の女性デモンスト레이ターとして活躍。1988年にマミ・スキースクールを藻岩山スキー場に開校。最年少の女性校長として注目される。テレビ北海道で5年にわたって「Heyシュプール」レギュラーを務め、スキーの楽しさや上達法を紹介して人気を集めてきた。

本間 真美 校長

今回は、スキー界の第一線で活躍されている方、特に女性の方を紹介させていただきます。SIA初の女性デモンスト레이ターであり、かつ、最年少でスキースクール校長になられた、札幌市藻岩山スキー場のマミ・スキースクール校長、本間真美さんです。スキースクールの女性校長はまだまだ少ないですが、今後多くの女性がご活躍されることを期待しています。

岩尾専務)

本日はインタビューに応じていただきありがとうございます。本協議会は、スノースポーツやスノーリゾーツの発展のため少しでもお役に立ることを願いいろいろな活動をしていますが、その一環として、スノーワー界と関係のある様々な個人、団体を取材し紹介しています。早速ですが、本間校長のスキーとの出会いなどをお聞かせ願います。

本間校長)

私は北海道の中富良野町生まれです。3歳の時に父に連れられてスキーに行ったのが初めてだと思います。小学校3年生から本格的に競技スキーを始め短大の2年生まで続けておりました。私は小中学校の大会では上位になれたのでオリンピック選手を目指していましたが、高校生になって全日本レベルの大会では成績が出ず壁の高さを感じさせられました。体育教師になりたかったこともあり、スキーに力を入れていた北海道女子短期大学に入学しました。ただ、クロスカントリーが主軸で、夏は陸上トレーニング、冬は中山峠スキー場での合宿しかなく、練習環境には恵まれていなかったように思えたので競技スキーをあきらめました。

SIAとの出会いは、スキーが盛んになり始めていた頃もあり、航空会社のスキーツアーポスターの撮影モデルさん達の吹き替えのアルバイトをした事でした。撮影場所は整備されたスキー場ではなく、十勝岳の山の中で新雪を滑るのですが、競技スキーでは圧雪されたスキー場でしか滑っていませんのでパウダースノーは勝手が違ってうまく滑ることができませんでした。その時、撮影の仲間にSIAの有資格者がいて、パウダーを上手に滑っていたのを見て憧れを覚えました。

大学卒業後はOLをしていましたが、大学在学中にSIAの資格を取りましたので、土日、祝日は、縁のあった中山峠スキー場のSIA公認校に頼まれてアルバイトでスキーを教えていました。OLは自分に全く向いていないことが分かり、2年でやめて、そのスキースクールの常勤になり、基礎スキーを習熟し23歳でSIAでは女性最年少のデモンストレーターになり、25歳の時にSIAとロシニョールのサポートをいただき、ENSA(フランス国立スキー登山学校、プロの養成機関)主催のフランス・ティーニュスキー場で行われたインターナショナル・インストラクタートレーニングに参加させていただきました。ここで世界のインストラクターと交流ができましたが、当地のスキー場の巨大さ、子供からお年寄りまでスキー・リゾートをゆっくり楽しんでいる雰囲気、これは、箱庭のような狭いスキー場でひたすら技術だけを追求するのとは全く違い、カルチャーショックを受けましたね。もともと教えることは好きですが、生徒にこのような世界があることを教えたい、見せてあげたいと思った事も独立した動機の一つです。

岩尾専務)

藻岩山スキー場で校長になられた経緯などもお聞かせください。

本間校長)

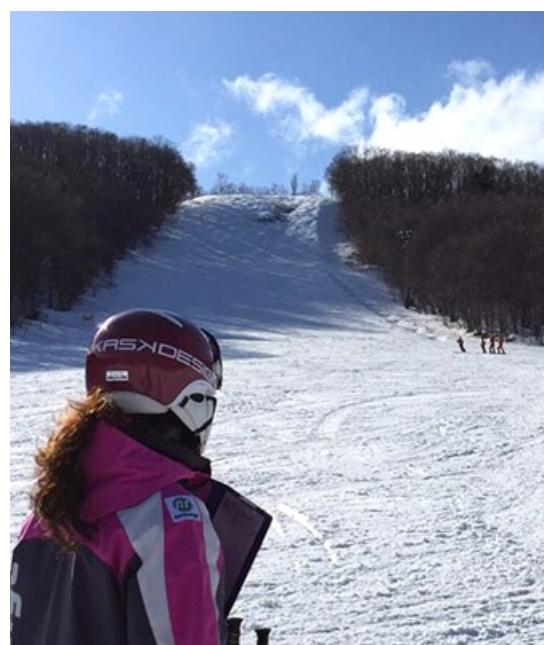
先ほど申し上げましたように独立を目指しておりましたが、当時のSIAの規約では27歳にならなければ校長になれませんでしたので27歳を待って開校準備をしました。規約では一山一校が原則ですが、札幌近郊では藻岩山スキー場にはSIA公認校は入っていませんでした。藻岩山スキー場は札幌市の管理地で、民間企業がリフトを運営し、レストハウスは市の振興公社が経営と複雑な形態ですが、札幌市、スキー場関係企業、関係者にコンタクトを取り、最終的にはリフト運営会社から認可をいただきましたが、その時は大変な苦労をしました。その時代では、27歳の女性校長は全国最年少だと思います。

岩尾専務)

藻岩山スキー場の特徴はいかがでしょうか。

本間校長)

札幌市内から一番近いスキー場で、北海道で最初にリフトがかけられたスキー場です。山頂付近は急斜面があり上級者も楽しめ、レストハウス前の一番下のゲレンデは緩斜面が広く初心者、ファミリーに適しています。スノーボードを禁止していますので、初心者、お子様、ファミリーには安心して楽しんでいただけるスキー場ですよ。



岩尾専務) _____

マミ・スキースクールの特徴、力を入れている点などをお聞かせください。

本間校長) _____

スクールのレッスンとしては、札幌市内の幼稚園（年中以上）、小中学生が主な対象です。学校が休みになる冬休みや春休み、土日、祝日がメインです。以前は主婦のクラスや企業のスキーレッスン等、また、カナダやニュージーランドへのスキーツアーも行っていましたが、バブル崩壊後イベントや海外ツアーが下火となり実施できなくなりました。現在は平日対策として、幼稚園のスキー授業や本州からのプライベートレッスンの営業をしています。スクールの特徴は、生徒とスタッフとの繋がりが強いことです。スキーの楽しさ、安全性、連帯感、マナー等を教えることに力を入れています。私が競技スキーをやっていた経験から、ポール・レッスンも取り入れて技術向上を目指しております。スクール案内は、ホームページ、シーズン前のDM発送やメール配信などをしておりますが、子供たち、保護者間の口コミ等でも入校していただいております。



岩尾専務) _____

スキースクールは冬だけの営業ですから各スクールともインストラクターの確保には苦労をされています。山間地では、夏は農業、冬はスキーのインストラクターというような方が多いようですが、札幌ではいかがでしょうか。特に、スキー場ではなく個人でスクールを運営されるうえで、スタッフの確保はどのようにされているのでしょうか。

本間校長) ━━━━

スタッフというよりも仲間ですね。教えることが好き、子供が好きなスタッフばかりです。中には生徒だった子供が現在はインストラクターになっているスタッフもいます。市内に近いこともあり、基本的には通年それぞれお仕事をされており、私自身は、長年スキーをして紫外線を浴びていたので肌が傷んでいたこともあります。スタッフは、冬にスキーインストラクターをするため自由の利く仕事を選ばれています。兼業、副業の走りともいえますが、スタッフの皆さんのお熱意に支えられている面が大きく、スタッフを毎年確保することを考えると、この先職業として成り立ってゆくのか、これはスキースクールに携わる皆さん共通の悩みだと思います。

岩尾専務) ━━━━

話は変わりますが、藻岩山スキー場、インバウンドはいかがでしょうか？

本間校長) ━━━━

コロナ以前から特にアジアの方々で、雪を見るのも初めて、札幌観光のついでにスキー場に来てスキーをレンタルしたけれどどうしてよいかわからない、スキーを教えてほしいという飛び込みが増え始めましたので、スクールとしては、スキー場、中国の旅行会社と連携し、インバウンドのスキー教室を始めました。コロナ禍の3年間は全くレッスンがありませんでしたが、今シーズンは、スクールへの直接申し込み、スキー場、旅行会社からの申し込みも増えました。

岩尾専務) ━━━━

コロナも一段落しこからは中国からのインバウンドが急速に増えてくることは確実です。SIAとしても、政府に要請し、ステージ1の資格があれば特定活動としてビザの取得ができる道を開きました。いかがお考えでしょうか。

本間校長) ━━━━

スクールとしては冬休み、春休み期間は市内の子供たちを教えるベースがあります。藻岩山スキー場としても、インバウンドに頼りすぎるのはリスクがあると思います。現在は英語で対応できる範囲で中国語対応は考えておりませんが、今後中国系インバウンドが増えるのであれば中国語が話せるスタッフも必要かと考えます。



岩尾専務) _____

スキーインストラクターに中国語を覚えてもらうのは無理でしょう。イントネーションや発音は相當に難しいです。ただ、札幌には大勢の中国人留学生がいますから、彼らにスキーを教えてステージ1の資格を取らせ雇用するのはいかがでしょうか。

遠藤北大教授) _____

私も実験的に留学生にスキーを教えてインストラクターを養成することを試みました。結果ですが、皆、ニセコに取られてしまいました。給料が違すぎるということです。

岩尾専務) _____

アルバイトには時間制限もありますから、留学生の活用には多くの問題点があるでしょう。ただ、北京オリンピックを経て中国のスキー人口は急増しているようです。今後の中国からのスキーインバウンドを考えた時、今のうちに日本のスクールで迎える準備をしておかないと、みすみすほかに客を取られてしまうような気がします。早急に皆で知恵を出し合うべきではないでしょうか。ところで、コロナ禍では皆大変苦労をされました。マミ・スキースクールはいかがでしたか？

本間校長) _____

スキーは屋外ですが、集団感染を防ぐため、送迎バスと昼食をどのようにすべきか大変悩みました。送迎バスは1日4台チャーターしていましたが、密を避けるためには倍の台数が必要になります。それでは経営が苦しくなりますので、思い切って送迎バスを廃止しました。保護者の方々にはご負担になりますが、これで生徒が集まらなければスクールを辞める覚悟で決断しました。

岩尾専務) _____

送迎バスというと、幼稚園やスイミングスクールなどのように、集合場所を決めて個々に子供たちを乗り降りさせるシステムですね。

本間校長) _____

その通りです。札幌近郊のスキー場ではどこもそのシステムでやっています。2023シーズンで開校35周年を迎えたが、バス送迎は多額の費用とスタッフへの負担、また子供達も始発からスキー場到着まで長時間乗車しなければならない負担、交通事情による遅れ等悩みの種ではありました。コロナ禍を機に送迎を止めてみると、生徒の数は若干減りましたが、逆に、保護者の方が安心してスキー場まで見送れる、レッスンが見学できる、スタート時間が遅れないでのレッスン時間がしっかりとれる、送迎の道中保護者とお子様のコミュニケーションが取れる等のメリットもありました。5日間コースを3日間コースに変更、レッスン内容の向上、SIAメダル取得、イベントの企画等充実を図りました。今後もバス送迎は中止して行こうと思っています。



岩尾専務)

最後になりますが、今後の抱負など、お聞かせください。

本間校長)

今後は、コロナ禍で培った事を大切に、マミ・スキースクールを気に入ってくれて入校していただける全てのお客様を大事にして行こうと思っています。特にジュニアに関しては、シーズン会員の子供達を中心に、道内の他のスキー場での練習や合宿等スキーを楽しんでいただける企画を考えています。スキースクールはどうしても冬期に限られますから通年での採用はできませんので、スタッフの皆様のスキーへの情熱、仲間意識に支えられています。今後の少子化、スキー人口の減少、スタッフの高齢化等を考えると不安もありますが、現在のスタッフは教えることが好きですし、子供達が上達し感動する姿を見ることは何物にも代えられないですね。

岩尾専務)

スキー界における女性リーダーのお一人として、本協議会といたしましても、今後増々のご活躍を期待しております。本日はありがとうございました。